

			2008	2009	2010	2011	2012	2013	予想	
昭和大学Ⅱ期										
有機化合物	芳香族化合物	48	ベンゼンと誘導体							
		49	フェノールと誘導体				○3			
		50	芳香族カルボン酸と誘導体					○3		
		51	芳香族アミンと誘導体							
		52	有機化合物の分離							
化学結合と物質の状態	化学結合	53	主な結合と結晶格子							
		54	結合エネルギー							
		55	電気陰性度							
		56	配位結合							
		57	分子間力と水素結合							
		58	結晶構造, 密度と計算			○4層間	○1イオン結晶, 密度			
		物質の三態	59	物質の三態変化・蒸気圧						
			気体	60	ボイル・シャルルの法則					
	61			気体の状態方程式						
	62	混合気体と分圧		○3蒸気圧						
	63	理想気体と実在気体								
	溶液	64	溶解の原理					○2		
		65	固体の溶解度					○2水和物		
66		気体の溶解度								
67		沸点上昇等, 浸透圧								
68		コロイド溶液の性質								
反応の速さと平衡	反応の速さ	69	反応速度と速度定数							
		70	活性化エネルギーと触媒							
	化学平衡	71	化学平衡と平衡移動							
		72	平衡定数		○3Kc, Kp, 解離度					
		73	電離平衡, 電離定数							
		74	水のイオン積とpH					○1		
		75	緩衝溶液						△	
76	塩の加水分解	○4Kh, pH		○1液性	○2pH		△			
77	溶解度積			○2						
高分子化合物	合成高分子	78	合成繊維, 合成樹脂	○7熱硬化性樹脂						
		79	合成ゴムと天然ゴム	○6天然, 合成						
	天然有機化合物	80	単糖類, 二糖類					○3		
		81	多糖類						△	
		82	アミノ酸, ペプチド					○6ポリペプチド		
83	タンパク質						△			
84	脂質					○3				
85	核酸	○6塩基, ATP, DNA								
生活	衣料の化学	86	天然繊維					○6絹, 羊毛		
		87	合成繊維					○6アセテート		
	薬品の化学	88	医薬品		○7抗生物質					
生命の化学	89	呼吸とエネルギー				○5エネルギー代謝				
<2014年予想>										
・ 脂肪族化合物と異性体は頻出である										
・ 化学反応式と量的関係は頻出である										
・ 化学平衡からは緩衝溶液か塩の加水分解であろう										
・ 高分子からは糖類、アミノ酸タンパク質であろう										
・ 無機はリンとリンの化合物ではないか										